

日本経済新聞

抄遊交

金持会は首「い」と歌いだした。私は都圏に住む鳥一瞬あっけに取られた取県西部山間部出身者の集まりだ。毎月受けでホツとした。

1回、新宿かいわいで放談したり国内外を旅行したりして楽しんでる。メンバーは俳句の達人あり、社会学の泰斗あり、愉快でしかも勉強になる。この会の中心が弁護士の新壽夫先輩だ。

先輩の金持会

明 定 安 田

国内でもお酒が入るとこの歌を洒脱しやうたつにお歌いなる。ひょうひょうとしていながらも尊敬できる人柄が、会を30年も長続きさせているゆえんだろう。私が会長を務める日本べんとう振興協会の理事もお願いしアドバイスをいただいている。

ちなみに金持会

私は高校生の頃、不良生徒だった。担任の教師からは「お前の先輩で新君というのは実に優秀だったのに」とよく叱られ、新先輩の名前は当時から聞き知っていた。倉時代の吾妻鏡にも登場する由緒あるタタラ(製

今春、ミヤンマーを訪問し、ある家庭に招かれ、歓迎を受けた時のこと。新先輩が突然「ひとつ出たほいのよさほいのほ

|| 武蔵野会長)